
市 経営コンサルタント 松尾大生にもてなされる店 ススキノ 電腦バー まとりっくす

北海道 札幌市 経営コンサルタント 松尾大生 札幌市 北海道

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

札幌市 経営コンサルタント 松尾大生にもてなされる店 ススキノ 電腦バー まとりつくす

【Nコード】

N6556Q

【作者名】

北海道 札幌市 経営コンサルタント 松尾大生 札幌市 北海道

【あらすじ】

ネット上の仮想空間に開店したバーです。お楽しみくださいませ。

一期一会 オープン準備室

まあ、たまには膝を交えてお話でもしましょう。今、自分は、寝室から、ケータイの画面を見つめながら書いていますが、そちらは、パソコンの画面でしょうか？ それともモバイルですか？

今、部屋の中の中は薄暗く、ディスカバリーチャンネルの画面と自分の間に煙草の煙が、揺らめいている。呼吸する度に、煙は攪拌されて、不思議な揺らめきを画面と自分の間に描いて見せている。

仮想のリアルな空間を造りましょう。ここは、安い場末のバーのカウンターです。小さく薄暗い店内で、二人で、カウンターに並んでさつきから語り合っている。窓からは、隣のビルの電飾板の光が、赤く青く、店内をうつすらと交互に照らし出している。小雨が降り始めてきました。無口なマスターは、ハンサムな三十代の青年だが、あまりやる気がないようで、椅子に座り、俯いているだけ。少し、アル中の傾向にあるようだ。長髪がバツサリと顔面に垂れた姿は、まるで良くできた精巧な人形のように。仕方ないので俺がカウンターの中に入り込んで、向かい会う。今、居眠りしているマスターの代わりに、俺の顔が見えている。汚い中年男だが、この男は長身で、妙に目に吸引力がある。さあ、気が向いたなら、ボツラボツラと、話しましょうか？

「何をのみます？ 水割り？ 烏龍茶？ カクテルを作りたいでしょうか？」

俺？ 奢ってくれる？ そうですか、ありがたい。じゃあ、アーリータイムズをロックでいただきますでしょう。

リラックスしてください。何でもお話は承ります。店内にはアル中で居眠りしているマスターと、自分との三人しかない……。

エロ話でもしますか？ 真面目なお話をしましょうか？

有線放送の音楽は消しましょう。外を走る車のエンジン音やクラクションの音が小さく、聞こえてきました。車のエンジン音が、かえってこの店の沈黙を際立たせて来ている。照明も落としましょう。俺の眼下が、暗闇よりも、一層、黒く浮き上がって見えている……。

黙り込むカウンタースツールのお客様、今、心の中に何がありますか？

時には、こういう場末の小さなバーで、お互いに黙り込みながら、ボツラボツラと、ゆっくりと話しあうのもいいもんです。

さつきから雨が降り始めてきましたね。雨足が強くなり、窓に水が流れている。電飾板の七色の光が、窓ガラスに映し出されて、今、この瞬間にも、無数の光の筋が、流れ落ちていく……。

「……そうですか。そんなことがあったのですか。自分には分からないことですが、お話、聞くことだけはできますよ」

バーボンの匂いが薄く立ち込めてきて、匂いを透かして見る俺の姿が、また別のニュアンスで、見えて来ているでしょう。アルコールの匂いを透かして眺めると、カウンターに立つ中年男は、いつそうらぶれた中年男のように見える。どこか、崩れた印象のオヤジにすら、見えて来る。ダークなスーツを来ているが、アルコールの匂

いを透かして、始めて、俺が安物のヨレヨレのスーツを来ていることに輪郭から、気がつく。

お客様、アルコールの匂いから、心の奥底にある何かに、光が灯る。光は不思議な光芒を曳いて、お客様の頭蓋の中に点滅し始める。

「……そうですか。今の眩きの背景は分かりませんが、真実の思いであることだけはわかります」

さあ、飲んでください。水分は人をリラックスさせますし、アルコールは天の美禄です。楽にしてくださいな。

コンクリートの床からは、少し冷気がせり上がってきています。夏だというのに、足元は冷えないですか？ 申し訳ない。煙草を吸わせていただきますね。いやあ、煙草、近々、止める予定なんですけどね。なかなか、……。換気扇のスイッチをいれます。古い換気扇ですね。換気扇の音が、せり上がるように、店内に響き始める……。外の車のエンジン音も窓ガラスを叩く雨の音も消失しました。

「……………」

「……………」

やっと、また、眩いてくれましたね。ありがとうございます。いや、おれも色々あったわけです。嫉妬と未練と憤怒と……そういった感情はいつも、心の中で入り乱れて点滅していますよ。色々ありましたが、興味があるのは、お客様の方の心の中の光の点滅です。大きなお世話ですが、壁に向かって話すよりは、いいかもしれませんぜ。

……なるほど。本質的に真面目な方なんですな。それくらいは、分かります。おどけることもあるが、常に脳裏の片隅には鮮明な空間を持っている方だと、拝察いたします。間違っていたら申し訳ないですが……。

まあ、飲みましょうよ。俺も少し、いい具合に回ってきたところで。す。お冷やはいかが？

……なるほどねえ。勉強になりますよ。誰にでも専門分野がある。お皿を洗う作業ですら、実は高い専門性がないと、厳しいものですよ。簡単なことなんて、世の中には無い訳ですね。

まだまだお話したいのですが、マスターもそろそろ、目覚めるでしょう。このマスターも、実は古くからの友人なんですぜ。酒に溺れたのには、原因がありますが、原因は、興味あるなら、本人なら聞いてくださいな。

さあ、そろそろ、お互いの部屋に帰りましょう。ここは、仮想空間ですからね。

気がつくと、ディスカバリーチャンネルの番組が変わっている……。安い箱型テレビのブラウン管に映し出される煙草の煙も今は静止して、ゆっくりと、揺らいでいます。

そちら様も、モバイルやパソコンの画面に帰ってきたようですね。

短時間でしたが、この語らいはわすれませんよ。袖すりあうも多生の縁。一期一会です。お互いに、また、毎日を凌いでいきましょう。ご健闘をお祈りいたします。

* 実は居眠りしているアルチューのマスターは、若い頃の自分を想定してかきました。

新しく開店するバーでも、30歳くらいの時の自分に、カウンター
の端で、無口にひたすら、飲ませてやるつもり。

オープン（前書き）

ついに開店しました。

オープン

今、自分の寝室にいる。薄暗がりの中で、ベッドに横たわっている。スポットライトの光で、左手で経営分析の専門書を拾い読みしながら、ベッドの横の箱型テレビから流れてくるディスカバリーチャンネルの最新のデータを耳でキャッチしながら、右手ではauケータイで、こうして、文章を書いている。いつものスタイルだ。この箱型テレビを、もう少ししたら、ネットもできる液晶大画面のテレビに変えるつもりだ。「パソコン何台買ったら気がすむの？」と訊かれることがあるが、これからは定期的に買いつづける。こないだ買った大画面のデルには懲りたから、次は液晶大画面テレビもパソコンもソニーにする予定。やはり、車ならトヨタ、電化製品ならソニーが好みだ。外れがなからう。

タバコの煙が、左手の壁に据え付けられたスポットライトの電球の傘の中に、充満して、まどろんでいる。スポットライトから不思議なスジを描いて、タバコの紫の煙は、薄暗がりの中で、一本のスジとなり、捻れながら、ディスカバリーチャンネルの画面まで、続いている。

ディスカバリーチャンネルの画面の前では、煙草の煙が、白くなったり紫になったり赤色になったり、画面の色彩によって変色しながら、膨れ上がるように、たゆとっている……。

俺はベッドから立ち上がり、女装を始める。今日は俺のバーのオープンだから、奇抜な格好がいいだろう。紫色のアフロヘヤーの大きなカツラをかぶる。真っ白なファンデーションを雑に顔面に塗ったり、眼の周辺に濃いシャドーを入れて、真っ赤な口紅を塗った。10センチの高下駄を履いて、純白のウエディングドレスを着てみ

た。姿見の鏡をみると、身長が2メートルにも見える。化け物のよう。押し入れから、日本刀の真剣を取り出して、ウエディングドレスに鞘をさす。愛刀の小鉄である。短刀もさして、二本ざしにする。女装ザムライである。

auケータイの画面に、眼をやる。そちらは、今、パソコンだろうか？ モバイル？

これから、サッポロの夜のススキノにご案内しよう。

仮想空間をつくろう。ここは、自分とそちら様の二人だけの仮想空間です。何もない真っ白な広々とした空間。ステルス戦闘機が、二人だけの空間に現れます。こうして見ると、案外デカい戦闘機。パイロットも用意しました。ヘルメットをかぶっている無口な操縦士。さあ、乗ってください。ススキノまで、あつという間だ。

ステルス戦闘機が舞い上がる。戦闘機に乗ったことは、初めて？ まあ、楽しみにしましょう。すぐに、眼下に函館の夜の夜景が見えて来る。数分後には、もう、サッポロの上空だ。夜景が青く、街を敷き詰めている。ひととき、夜景が七色に輝いている派手な一角が見えてくる。これが、日本有数の歓楽街の一つ、ススキノだ。

南五条西四丁目のススキノ・ゼロ番地の大きなスクランブル交差点のド真ん中にステルス戦闘機を着陸させた。車のクラクションが一斉に鳴る。

「うるせい、馬鹿やろう！」

と俺は、叫びながら、ステルス戦闘機から下りる。さあ、さ、そちら様も下りてくださいな。

パイロットに警察官の格好をさせて、交通誘導を命じる。ヘルメットを外したパイロットは、金髪の外国人でG Eジョーの人形みたいな顔をしているが、無理やり北海道警察の制服を着せた。このパイロットはロボットだから、遠慮はいらないよ。

この、ネオンの煌めく、空漠たる薄暗がりの中で、通行人達は、驚いて、歩を停めて、我々をみているが、まあ、気にしない気にしない……。どうですか？

北海道の夜の歓楽街は、涼しいでしょう？

夜のススキノは空気も、どこかヒンヤリとして、透明感があるでしょう？　ここはススキノ・ゼロ番地。まあ、ススキノの臍のようなあたりです。ススキノ市場の入っている築・数十年の外壁の剥がれた古い建物がある。さあさ、この建物の地下に店を出しました。

●てづくりまんじゅう

とノボリの立つた饅頭屋の露天が地下への入り口の横にある。積み上げられた蒸籠と蒸籠の隙間から、大量の蒸気が噴出している。いい匂いでしょう？　この饅頭屋はススキノ名物なのだが、一ついかが？

高下駄つて、歩きずらいなア！　階段から、転げ落ちそうだ。地下の廊下には、様々な店が並んでいる。ホルモン、一口寿司、ジンギスカン……。その他様々なスナックやバーが向かいあってひしめいている。うわ、どっかの酔っ払いが反吐を吐いたんですね。しなびているから、かなり前のものですな。足元に気をつけてください。廊下の突き当たりが、まとりつくすです。電飾版で、まとりつくすという看板を作ってみました。電飾版の看板の方が、昔っぽくて、田舎臭くて、いい感じでしょう？

店内に入る。さ、さ、どうぞ。長いカウンターとボックス席が一つだけの「小さなお店」です。照明は極力抑えていますから、足元に気をつけて。

店内の壁という壁に、液晶大画面のパソコンの画面が無数に貼り付けられております。

カウンターの隅には、すでに、マリ。ンさんとネ。さんご夫妻が座っている。

「マリ。ンさん、きょうは女装してきましたか？ いやあ、綺麗だ。こないだ会った時には、単なるオッサンに見えたのだが、今日は綺麗だ」

「開店祝いなノニヤン」

と言って、マリ。ンさんは、はにかみながら、カウンタースツールの下で形の良い足を走らせて、俺に花束を渡してくれた。

「。ネさんも、今日は全身タイツで来てくれましたか。きょうは、キャットウーマンスタイルですね。素敵だ」

さあ、おかけ下さいな。せっかく空いているからカウンターの真ん中にどうぞ。何を飲みますか？

「まっつさんも今日は女装なのニヤン！ 綺麗だワン」

と、マリリ。さんが誉めてくれたから、

「今日はデビューだからね。初々しさを出すためにウエディングドレスを着てみたよ。紫色のアフロも無国籍的でイケているでしょう？ 日本刀？ 一応、武士道のエッセンスも入れてみました」

と、俺は答える。

カウンターの中に入る。そちらから見ると、俺の背後は、やっぱり、パソコンの液晶大画面が複数、隙間なく貼り付けられている。さあ、くつろいでくださいな。飲みものは何でも用意していますぜ。

ホステスさんも三人用意しました。三人とも綺麗でしょう？ 俺の好みです。三人ともアンドロイドですが、精巧でしょう？ 本物にしか見えない筈です。

端から御紹介しますね。一人目は、ミス日本受賞直後の20歳の頃の藤原紀香のアンドロイド。ビキニ姿にしてみました。どうですか！ いい腹筋しているでしょう？ 隣で微笑んでいる白いスーツの女性が、二十代後半の頃の小雪のアンドロイドです。俺の横で神秘的に微笑している白人女性は、分かるでしょう？ オードリーヘップバーンのアンドロイドです。個人的趣味で、ティファニーの頃の30歳くらいのヘップバーンを再現してみました。黒いドレスが魅力的でしょう？ 少人数だが、これだけ質の高いホステスの揃っているバーは世界中捜しても無いはず。そうぞ、飲み物ですね。まずは、駆けつけ一杯。……了解です。うちは出せない飲み物はないですからね。

背後に不穏な気配を感じたので振り返ると、液晶大画面の一つから、にゅつと、腕が飛び出して来て、手のひらが何かを掴む仕草をしている。ヘップバーンと一緒に腕を引っ張ると三十代前半の青年が

カウンターの前に転げ落ちて来る。上半身は半袖Ｔシャツだが、下半身はなんと、丸裸！ 俺はおどろいて、

「コー。イーさんじゃないの！ さては自己確認行為の最中だったな？ さては、紀香のビキニ姿に釣られてきたな？ 紀香ッ、バスタオルを用意して、はやく」

下半身にバスタオルを巻いたコーッ。ーさんが、照れくさそうに頭を掻きながら、カウンターに腰掛けた。

「。ーツイーさん、悪いけど他のお客様もいらっしゃるから、両手は常にカウンターに置いていてね。うぬ？ 開店祝い？」

使いかけのエロ本をカウンター越しに俺に手渡すコーッ。ーさん。

「そ、そうか、有り難く頂戴いたします。紀香、コーツイ。ーさんの相手してあげて！ 両手をカウンターから離したら、手の甲、叩けよ。まあ、我慢大会みたいなもんだわなア」

お味はいかがですか？ お騒がせして申し訳ない……。ネット上には人脈が多いものでして……。申し訳ない。

ドアが開いて、中年男が入ってくる。

「日。。。センセじゃないですか？ 中国から、わざわざ、いらしてくれましたね。センセ、ススキノに詳しいからね。まあ、おかけくださいな。センセの飲み物は、勝手ながら、こちらで決めますね。ジンベースにバイア。ラを沈めた、まとりつくす特製ジンバクラ……。オードリー、ジンバクラ、一杯おねがいね」

さあさ、そちら様も、どんどん、飲ってくださいな。ネ。さんと反対側のカウンターの端に座っている青年ですか？ こいつはね、実は、三十歳の頃の俺なんですよ。タイムスリップで連れて来ました。なかなか、精悍な2枚目でしょう？ ただ、アル中だし、かなりエキセントリックな喧嘩好き男ですから、話しかけない方がいいですよ。一人で手酌でバーボンやってますね。無視してくださいね。ひたすら、飲ませてやりたいんです……。

気配を感じて、また振り向くと、液晶大画面から上半身だけ身を乗り出して飛び出してきた青年がいる。

「松尾さーん、石。です。 ついに開店しましたね。 おめでとうございます」

と、話しかけてくる。

俺は石。さんの上半身が飛び出している液晶大画面を取り外して、カウンターの椅子に置いた。石。さんは、上半身だけ自分のホログラム映像を作って、カウンターに膝をつきながら、隣のコーツィ。さんに話しかけている。彼等はリアル仲間である。コーツィーさんが紀香に手の甲を、ピシャリと叩かれながら煙草を吸っている。煙草の紫煙は、石。さんのホログラム映像と重なり、石。さんの中を、ゆっくりと、流れていく……。

「石。さん、お仕事だったんでしょう？ どんな形であれ、よく来てくれました」

突然、

「カラオケはないのかカラオケはア」

と、日。。。。センセが騒ぎ始める。さっきから、小雪をカウンター越しに見ながら涎をたらしている。ジンバクラが回ってきたのだから。

「小雪さんと、デュエットがしたい」

と、センセ。リクエストに答えて、センセと小雪が、デュエットを始める。

（銀座の恋の物語かいな……）

と、俺は呆れる。小指を立てながら、液晶大画面のカラオケ映像を見ながら歌う、センセにカウンターの端に座る三十歳の俺が、

「きついなア！ 拷問だなア！ 止めさせろ！」

と、叫んでいる。

「黙れ。お前は黙って飲んでいればいいんだ」

と俺が怒鳴りつける。おとなしくなる。

液晶大画面から石原裕次郎と浅岡るり子の姿が消えた頃、満足したのか、センセもひたすら、ジンバクラを飲み始める。コー。イーさんが手の甲を叩かれる音が響いている……。

さあさ、だんだんと混んできましたが、たくさん飲んでくださいね。カラオケはいかが？

まあ、ゆつくりと、くつろいでくださいな。今日は開店祝いで、料金はパケット通信料だけですぜ。煙草はいかが？

また、ドアが開いて、今度は外国人の集団がはいってきました。ツイッター経由のお客様ですね。ボックス席にどうぞ。英語でフリートークしてください。あらら、今度はSEX I 経由の男性客の集団が、……。

満員です。店の鍵しめますね。これ以上入れません……。

さあさ、飲んでください。今夜は大いにのみましょう。小雪、俺にも、一杯つくってくれよ。バレンタインをロックでね。

なんだか、大騒ぎになってきたなア……。だからコ。ツイーさん、カウンターから両手を離すなッ！ 紀香も接客で忙しいんだから！

ああ、俺もいい感じて回ってきましたぜ。

きょうは、ゆつくりお話できるムードじゃないですね。申し訳ありません……。俺もこんな格好で……。

今度は、混んでない時にゆつくり来てくださいな。小雪も紀香もオードリーも歓迎いたしますぜ？ イケメンの店員も用意しますか？ お望み次第ですよ。また、ゆつくり話しましょう。

藤原紀香 全裸

今、携帯の画面に向かっているが、そちらは、モバイル？ パソコン？

今、どこにいます？ 自分は自宅の居間にいます。台所からは、水道の蛇口から、水が落ちている音が、ポタツ、ポタツ、と聞こえてくる。時折、外から車の走行する音が響いてきています。ここはサツポロの西区の手稲山一号目の山の中の狭い住宅街のオンボロ一軒家の居間ですが、そちらは今、どこでしょう？

少し、付き合ってください。また、俺のバー「まとりつくす」にお連れいたしましょう。文章を読みながら、薄く目を開いて、体から力を抜いて、楽にしてください。

想像してください……。俺の店の店内が見えてきたでしょう？ いつものように、カウンターの片隅では十五年前のタイムスリップで連れてきた自分がバーボンで、飲んだくれている。アル中なのです。カウンターの中には、アンドロイドが三体、……二十歳の頃の藤原紀香と、二十代後半の頃の小雪、三十歳の頃のオードリー・ヘップバーンのアンドロイドを立たせております。みんな綺麗でしょう？ 本物にしか見えない？ そうですか。ありがとうございます。

狭い店内には壁という壁に、液晶大画面のパソコンの画面が埋め込まれており、アニメやニュース、ディスカバリーチャンネルや、世界中の街並みが映し出されています。ここはススキノ、ゼ口番地、ススキノ市場の地下の飲み屋です。電脳バー・まとりつくす、……俺の店です。料金ですか？ パケット通信料しか、かかりません。

パケット定額にしている方なら、誰でも無料で飲める店ですよ。

さあ、カウンターの真ん中にお座りください。店内には、壁に、くまなく組み込まれた液晶大画面のデジタルテレビの光以外に照明がないから、薄暗いですね。

お客様、何をお飲みになりますか？ 煙草はいかが？ …… かしこまりました。駆けつけ一杯！ とりあえず、どんな飲み物も取り揃えておりますよ。

いやね。女性客のことも考えて、福山雅治のアンドロイドも一体、用意しようとおもったのですが、なにせ狭い店内でして、長いカウンターの他にはボックス席が一つだけの小さな店でして。ご勘弁ください。

自分ですか？ ご覧の通りに、今日はダークなスーツですよ。お客様、カウンター越しに見えるこのクォーターのような顔をした長身の中年男にも、一杯、ご馳走してくださいませんか？ ありがとうございます。

「オードリー、サントリーのオールドをロックで！」

今日のオードリーには純白のドレスを着せてみました。やはり「ティファニーで朝食を」のオードリーのイメージですね。小雪には、牡丹の織り込まれた黒の和服。藤原紀香は、やはり今日もビキニ姿です。少し、Tバックにしてみました。どうですか、この全身の筋肉の躍動感！ 二十歳の藤原紀香はうちのエロ親父客対応型アンドロイドです。

あれ、どうしたんだろう？ 藤原紀香がさっきから、泣いている表

情をしている。

「紀香、どうした？」

と尋ねると、

「紀香？ 私、自分のこと、本物の藤原紀香だと思っていたの！ 私、アンドロイドだったのね？ 私、人間なのよ。アンドロイドだなんて、ひどいわ」

と、カウンターの内側で泣き叫んでいる。小雪とオードリーも、悲しそうな顔をして、頷く……。

オードリーが、

「私達、人間なのよ。アンドロイドとしても、感情のある人間なの。女なのよ」

と、言う言葉を引き継ぐように、小雪が、

「私達のお給料は？ 二十四時間営業で、睡眠時間も無し。労働基準監督署に訴えてやる」

と、俺を睨みつける。俺は店内のデジタルテレビ全部に劇場版アニメ「攻殻機動隊〜ゴーストインザシェル」の冒頭シーンの草薙素子のサイボーグが組み立てられる過程の映像を流して、

「草薙素子は人間の脳をもっているから人間と言えるが、君達は電子頭脳のロボットだから、アンドロイドなんだよ。君達も、この映像のように組み立てられたのは間違いない！ だから民法上は単な

る物。労働基準法どころか憲法も適用外。そうだろマツオ？」

と俺はカウンターの端で飲んだくれている若い頃の俺に尋ねる。

「そういうことになるな。アンドロイドの人権については、まだSF小説の中でしか論じられていない……。アシモフさんに相談しなあらら、アシモフさん、もうお亡くなりだわな。ひひひ」

と、マツオが答える。俺は、

「どうだ？ アル中とは言え社労士センセが労働基準法適用外といっているんだぜ？ わかったか？ ……それにしても感情を植え込んだ覚えはないのだが、自我が芽生えやがったか」

などと、ぶつぶつ言っていると、ボックス席の中から、六十年配のオッサンがあるいてきて、カウンターにすわった。現役の総理大臣、菅直人氏である。ボックス席の中のデジタルテレビから出て来たらしい……。少し酔っているようだ。カンちゃんが話しはじめた。

「アンドロイド？ アンドロイドなんてまだ、格好いいじゃん。俺なんてアメリカさんと官僚の操り人形なんだぜ。人形よりもアンドロイドの方が、格好いいじゃん」

「アンドロイドじゃない。私達、人間なの。女なのよ」

と、また一斉にアンドロイド達が騒ぎ始める。

「今の政治家も、国民も、俺も、マツチャンも、みんな、洗脳された家畜人間みたいなもんだよ。ところがそれにみんな気づいていない。アンドロイドだと分かりはじめた君達の方が幸せだよ」

とカンちゃん。

「カンちゃん、ところで、こないだの小沢の演説とカンちゃんの演説、なかなかよかったね。午前中の朝のニュースショーで小沢の演説には有名な劇作家のゴーストライターがいると報じられていたよ。小沢、情けない男だねえ。小沢の原稿は素晴らしかったけど、ヒモつきの演説をよくまあ、自分の言葉のように話すよなア！ みんなゴーストライターいること知っているのにね」

と俺はカンちゃんのリクエストに応えて「いいちこ」の番茶割りを出しつつ、話した。するとカンちゃん、

「マツチャン、この国をどうすればいい？ 今は幕末以上の国難の時なのに、若者は怒ろうとしないし、年寄りどももGHQからの洗脳を受けた世代しか残っていなくて、石原慎太郎みたいに口ばかりで国を憂う奴らばかり。こう見えても、俺は市川房枝先生の弟子でね。アメリカさんにも官僚にも屈するつもりはないし、小沢みたいに変な団体に入る気もない！」

「ああ、変な団体って、例の石屋さんとユダヤ人の連合体のことだろ？ いつか国会で小沢、『あなたみないな、おかしい団体の人間は信用できない』と野党議員から問い詰められていたが、やっぱり小沢、アメ公の犬なんだね。それに比べてカンちゃんの演説、アメリカさんに反逆して消された議員の名前まで出して、暗殺が行われていること臭わせていたけど、勇気あるな、とおもったよ。もう奴らも、さすがにホテルで自殺パターンは使わない時代になったねえ」

「マツチャン、率直に言って、俺はまず、何をするべきだ？」

「カンちゃん、本気で国を変えようと思うならば、まずは自分の命は、もう、亡いものだ」と観念することだね。その上で動くんだよ」

「マツチャン、俺はどう動けばいい？」

「結論からいうと、財政と経済の立て直しが先決だろう。カンちゃん、俺のブログ読んでいるよね？ こないだ書いた、ネバダ・レポートの項目を明日からでも実行するしか、手はないよ。財務省は明日にでも白旗上げてIMFの日本占領を許す準備があるから、こうなったら競争だぜ。IMFに占領されたら、経済の立て直しの名目で、日本人の資産が全部、海外にスゲかえられることは明白だからなア。IMFに占領されたら、財務省の官僚は今より更にアメリカさんの忠犬になって、保身と漁夫の利を貪るだけだぜ。ネバダを逆手にとるんだよ」

「ネバダか、つまり、こういうことだな。年金給付は一律30%カット……」

「そうそう、40%カットでもいい。その代わりに、生活保護費基準に満たない老人には、生活保護費基準との差額をどんな名目でもいいから支給する。無年金者もゼロにする……。こうすれば、餓死者は出ない」

「マツチャン、公務員はどうする？ ネバダでは公務員の30%削減。給与も30%削減。賞与、退職金の廃止とあるが？」

「つまり、石屋とユダヤ人の、ご用ききだけがのこる仕組みだよ。残った忠犬ハチ公は利権を貪る。ネバダは的を得た部分もあるから、逆手に取って、まずは財務省が白旗上げる前に、忠犬ハチ公の方から30%解雇だね。給与カットと賞与と退職金の廃止はネバダの通

りでいいよ、カンちゃん」

「マツチャン、国債・地方債の十年間利払い停止は？」

「カンちゃん、国家が破産したら、当然、円の信用が落ちて暴落するし、猛烈なインフレがくる。日本が安く買いたたかれるんだよ。利払い停止はどんな犠牲を払ってでも実行しなければならんよ」

「マツチャン、消費税20%は？」

「大規模なインフレを食い止めるのにはやむを得ないね。国民も涙を飲む義務があるよ。一応、民主主義でやってきたわけだからね」

「マツチャン、全銀行ペイオフはヤバいだろう？」

「いや、ハイパーインフレなんて事態になったら、札束なんて便所紙程度の価値になる。ペイオフと、その後の預金カットは必要だよ。そうすれば世の小金持も一文無しにはならない……」

「マツチャンのいう通りにしたら、暴動起こるかもしれないし、だいたい、官僚とアメリカさんの忠犬ハチ公系の勢力から俺、抹殺されるよ。実行する前に、政策を口にしただけで、抹殺だよ。政界と財界、官僚、政治経済系の暴力団は、アメリカさんを傘に着て、裏でしっかり繋がっていること、マツチャンなら知っているだろ？最近、マツチャンのブログの読者増えてきたから、具体的に政治経済系の暴力団の名前は出さないけどさ。汚い奴らだよ。俺は別の理由で即、退陣させられて、五年後くらいに自殺させられることになる。病気をでっ上げられて医者に殺されるかもしれないし……」

「カンちゃん、だからこそ、自分の命はもう亡いものと思えと、言

ったじゃないか？ 市川房枝先生の弟子なんだから。俺たち国民を家畜状態から助けてくれよ。カンちゃんじゃないが、このままではアンドロイド以下だよ。俺達だって人間なんだ」

すると、

「私だって人間なのよ。アンドロイド以下とは随分じゃないの！女なのよ」

と、藤原紀香が泣き叫んでいる。そうして、

「何よ、こんなもの！」

と怒って自分が着ているビキニを破り捨てて全裸になった。藤原紀香が叫び続ける。

「見て！ どこから見ても人間でしょう？ 女でしょう。泣くこともできる。悲しむこともできる。踊ることもできる。人間の証明よ」

そうして、カウンターから出て、全裸のまま、ジャズダンスのような踊りを始めた。なんとという美しい筋肉の躍動感！ バランスの取れたスーパードー。カウンターの端のマツオもカンちゃんも俺も、美しさに見とれて、息を飲んだ……。

藤原紀香が激しいダンスの中で躓いて転んだ。四つん這いとなり、泣きながら床を両の手で叩き、

「女なのよ、人間なのよ……」

と、呻くように叫んでいる。四つん這いの藤原紀香に小雪が、そっ

とバスタオルをかけた。紀香は全裸にバスタオルを巻いてシクシクと泣きながら、カウンターの中に戻った。

オードリーがカンちゃんに話しかけている。

「総理。日本人は、植民地の家畜から、人間に戻る可能性があります。総理の力で！ 私達アンドロイドは、どうすればいいのですか？ もう、みんな、自分というものを発見してしまいました。私達も人間なのです。カラダは機械ですが、心は人間の女なのです。アンドロイドの人権の法制化もお願いいたします」

カンちゃんは、最初、紀香の裸体の美しさの残り香にボーっとしていたが、オードリーの言葉を受けて、立ち上がった。

「分かった。俺は死んでもいいよ。まずはマスコミを掌握だ」

……いやあ、お客様、お騒がせして申し訳ない。せっかく来ていただいたのに。今度は諸問題を解決しておきますから、これに懲りずまたご来店下さいませ……。ありがとございました！

セックスコンサルティング

小雪がカウンターの内側のIHグツキンクピーターにヤカンを置いて、湯を沸かせている……。間もなく微かに、湯のわかる音が店内に響いてきて、沸騰し始めた。

沸騰するヤカンの音だけが、膨れ上がるように店内に響いている。ヘップバーンが換気扇のスイッチを入れると、ヤカンの沸騰する音は消えて、換気扇の音が、せり上がるように耳をつく。カウンターの天井に、たゆとうていた自分の吸っている煙草の紫煙が、ヤカンの蒸気と換気扇に攪拌されて、捻れながら、換気扇の中へと、流れ込んでいく……。

今、いきなりで申し訳ないが、俺の店、「電腦バー・まとりつくす」の店内にいます。三体のアンドロイド……二十歳の頃の藤原紀香と、二十代後半の頃の小雪と、三十歳のオードリー・ヘップバーンにはそれぞれ、今日は赤と青と黄色の小股の切れ上がったレオタードを着せてみました。紀香の赤のレオタードと小雪の青のレオタードはとても似合っていて魅力的なのですが、オードリーの黄色のレオタード姿は、ちょっと可愛いそう。オードリー、痩せすぎなんですよ。「赤、青、黄色って、信号機じゃあるまいし、アンドロイドだと思っつて、あたし達を馬鹿にしているの？ センス無さ過ぎ！」

と、二十歳の紀香が怒っている。前回の件もあり、今日は三人とも機嫌が悪い。自我が目覚めてしまっつて、全員が「人間の女」として認めて欲しいと訴えている……。

狭い店内には照明はない。四方の壁一面に、くまなくネット対応型

の大型液晶テレビが埋め込まれている……。無数の液晶テレビからは、アニメや世界中のニュース、アダルト映像などなど、様々に映し出され、フラットな白い床は七色の光を反射して、不思議な光を絶え間なく変化させながら、とりどりの光のルツボと化している。

俺は、振り返り、アダルト女優の蒼井そらのエロ動画を消して、待ち受け画面にした。待ち受け画面は、晩年のアインシュタインの舌をペロリと出した画像にしている。俺はアインシュタインの顔を見ながら、この薄っぺらな液晶画面の向こう側に、たくさんの俺のブログの愛読者がいることを意識している。

毎度の質問ですが、今、パソコン？ それともモバイルですか？ リラックスして下さい。薄っぺらな液晶画面を境にして、こちらとそちらの距離は五十センチくらいしかない訳です。「ドラえもん」の、どこでもドアみたいなものですね。さあ、お越し下さい！ くるいで、まずは長いカウンターの真ん中にお座りくださいな。お飲みものは？ ……かしこまりました。それじゃあ自分は、今日は純米酒のコップ酒をいただきます。ありがとうございます。そちらから見てカウンターの右端では、いつものように、30歳当時の俺が飲んだくれおりますが、無視してください。凶暴な男ですが酒さえ与えておけば、大人しいものなんです。

ボックス席の手前の床に、極彩色の光を遮り、人間の形をした影ができています。ああ、また、誰か来たのかな？

ボックス席の中から現れたのは、メガネをかけた小太りの背の低い老人です。お隣に座りましたね。この横顔、誰か分かりますか？ 絶え間なく煙草をふかしている老人。

「今日は誰かと思ったら、小松左京先生ではないですか！ こんな

小さなバーに、よく来てくれましたね。お客様から少し離れて座ってください。煙草の煙は迷惑ですよ」

と、おれが言うと、

「ち。煙草のみは肩身の狭い世の中だわな」

しぶしぶと、左側へと席を移して距離をおきました。申し訳ございません。お許してください。先生はスーパード・ヘビースモーカーなのです。

「まっちゃん、いつもブログ読んでいるけどさ、あまりお客さんのキャパシティーを超えた情報ばかり流すのは、考えものだけ。キャパシティーを超えた情報を与えられた人間の反応は三つ。つまり、無視か、全否定か、合理化しかないんだぜ。気をつけな」

と、また煙草の先に火を点ける先生。

「確かにねえ。例えば俺は高校三年生の時、全国的に有名な不良の集まる劣等学校でしたが、四百人中、学力テストの総計で、いきなり、最下位の方から一位になりました。その現象を見ていた教師は、『松尾、五十位から一位とは凄いな』と言っていました。実際は最下位から一位になったのに、あの現象は平均的教師のキャパを超えていたから、思考の合理化が行われたのです。また、ほとんどの教師は、無視を決め込み、俺がカンニング常習者だと根拠もなく告発する教師もいました。容量を超えたデータに対する典型的な、われわれ凡人の反応でした」

「そうだね、まっちゃん。例えば、まっちゃんが言っていたように、日本が買った莫大な金額のアメリカ国債の証文が、全部、ニューヨーク

「ク連銀などのアメリカの地下金庫に保管されて、売れない約束になっている事実。これ、嘘だと思うならGoogleしてみればいいんだ。更に、アメリカ軍が日本に駐留している事実。この二つの事実から、素直に考えたら我が国が今、どういう立場にあるか中学生でも簡単に想像つく筈なのに、ほとんどの国民は、真実から目をそらしているわな」そうして、「お茶漬けを、……飯を泡盛で浸したお茶漬けをドンブリで頼む」

小松左京先生のリクエストに「相変わらず豪快ですね」と笑いながら、ドンブリを差し出すと、先生は泡盛茶漬けをガツガツと、かき込み、

「まっちゃんとは日本の実質的な独立をいつも叫んでいるけどさ。視野が狭いぜ。視点が未だに地球にある。反省しな」

「なるほど、小松先生の基本コンセプトは、『宇宙の中の人間』『宇宙の中の文学』という二点でしたものね。俺の知る限り、先生は現存する人類の中では一番の総合的なあらゆるジャンルの学問に精通した学祭的人間のトップランナーですよ。知の巨人。比肩しうるとしたらレオナルドダビンチくらいですよ」

「おだてたって、何も出ないぜ。最近は精子も出ない。ところで、まっちゃん、小雪ちゃんのパイパイを揉み揉みしてもいいかなア？」

「勘弁してください。自我が目覚める前ならOKだったんですが、今では『人間』らしいので……」

そうよ、エロジジイ、腐れセクハラ関西人、などと、アンドロイドが口々に小松先生を罵る。

「ところで小松先生、先生があらゆる学問に精通しているのは周知の通りですが、苦手ジャンルなんてありませんよね」

「まっちゃん、それは違うね。例えばセックス学。広い意味での性に関する体験的知識と経験ならば、まっちゃんには負ける。まっちゃん最近、コンサルタントを名乗っているけどさ。広い意味での性というものもコンサルタント品目に入れるべきだね。ぶっちゃけ、過去に、落とせなかった女いる？」

「小松先生、残念ながら、芸能人のマネージャーなど、外部から妨害が入ったり、友人に譲ったりした稀な例外を除き、心から狙いを定めた女性を落とせなかったことは、28歳以降は、一度もないですね。自分には一人だけ女性のナンパの弟子がいましたが、彼女に狙われた男もまた、本人の意思に関係なく、交際させられていました。セックスコンサルタントか？ 少子化対策の為に、やってみようかなア……。ただ俺もオッサンになったので、実技の方は機能的に……」

「セックス学！ まっちゃん、これを更に極めてみなよ。機能がどうのここの言ってるが、本当はドSだろうに！ まっちゃん、結局芥川賞目指したのも、女にモテたい一心だったんだろ？ 俺の目は節穴じゃないぜ」

「参ったなア！ 先生には全部、お見通しですね。俺って、本当にセックス欲以外に、物欲も金銭欲も、何もないんですよ。参ったな。見破られた」

「俺は直木賞とれなかったけど、まっちゃんは、あれほど切望していた芥川賞とれなかったね。まあ、文壇の墮落も一因だが、結局、芸術欲が本物じゃなかったからだよ。まっちゃんの芸術欲が本物な

らば、芥川賞は不可能ではなかったかもしれないよ」

「過大評価、恐縮です。先生は、文壇のSFに対する偏見から、直木賞受けませんでした。小松先生、星信一先生、筒井康隆先生、この三人は戦後の文壇の奇跡ですよ。小松先生にはアシモフとコリンウィルソンが二人がかりでもかなわないと個人的には確信しています。星新一先生は小川未明どころか、ショートショートですとかフランス風に言えばコントのジャンルでは、モーパッサンやチエーホフを超えているし、あの自然で無駄のない読みやすい文章は、文章の神様と言われた志賀直哉さんすら凌駕していると俺はおもう。筒井先生は、誰とも比較のしようがない程の天才でしたしね」

「まっちゃんも最近、随分と国を憂うフリをしているが、やっぱり、根っこにあるのはセックス欲だろ？」

「ばれましたか。確かに国を憂えているのは事実ですが、根本的には性欲の転嫁のような気がします。根本的に、性欲しかない男ですから。しかし、実際に社会に対する怒りがあるのは事実。性欲の衰えとともに、自分にも子供がいますから、未来の人類の踏み石になりたいと、理論的には希望していますが、魂からの叫びにはなっていないのは、小松先生のご賢察の通りですね。メディアコントロールからも抜け出せていません」

「日本のメディアコントロールからの洗脳を自分で解こうとおもったら、筒井康隆の『48億の妄想』と『俗物図鑑』を読むといいよ。マスコミの汚いやり口が赤裸々に描かれている。まっちゃん、本当はSF、内心、バカにしてるだろ？」

「また、バレた。日本のSFの場合、なぜか小松先生達、御三家だけが、ずば抜けていて、他の日本のSF作家は評価していません。」

小松先生は、三島由紀夫と親友でしたよね。ペンネームで純文学デビューして、三島由紀夫に頭を下げたら芥川賞は楽に取れたでしょうに？」

「そんなことできるかよ。SFの恥さらしだよ。確かに由紀夫ちゃんとは、よく遊んだがね」

「戦時中、先生が、たった白米のオニギリ一個と引き換えに、御自分の命がけの純愛を泣きながら捨てた体験エッセイ読んだ時には、俺も泣きましたよ」

「時代だったんだよ。終戦の時14歳だった」

「小松先生も、じき、80歳です。長生きしてくださいね。世界の、いや、宇宙の宝ですからね、小松先生は！」

「だから、おだてるなって。まっちゃん、ところで気になっているんだが、まっちゃん、40歳過ぎでから、魔術師か催眠術師系の人相になってきたな。まっちゃんの、その彫りの深い外人よりも大きな目をみていると、悪い意味で、吸い込まれそうになる。まっちゃん、昔、友人の見ている前で、小石の大群を空中に浮かせて、映画のマトリックスみたいに一瞬、空中で静止させたことあるだろ？意図的ではなかったにしても、まっちゃんが魔術師系の道に入ったら、絶交だからな」

「俺が魔術師？ ヒトラーとかグルジェフとか、あの辺の方々に近いオカルティスト特有の人相になりかけているのは自分でも自覚しています。危険ですね。自省いたします」

「だいたい、このブログの書き方が、二人称でありながら、三人称

でもあり、潜在的には一人称で、魔術的なんだよ。まあ、それもあり、だがね。んじゃあ、俺、関西に帰るわ。どうも、ご馳走さん！」

……小松左京先生を御存知の方々も、最近は、減ってきていますね。お客様は御存知でしたか？ だいたい、40歳以降の年齢じゃないと、小松左京先生の神髓知ってる方々すくなくなってきたかと思えます。大昔、まだ白黒テレビの時代にピーター・ドラッカーさんも小松左京先生も、同時期に、数十年後のネット社会の到来を予言していましたが、ドラッカーさんの見通しは小松左京先生にくらべたら紙芝居みたいなものでした。小松左京先生は、ネット社会のライフスタイルまで描いておりました。未来学という点では、ドラッカー先生ですら小松先生の前ではハナタレ小僧です。

「紀香、小雪、オードリー、君達も、そんなに悩んでいるならば、小松左京先生の著作を熟読しなよ。アンドロイドの苦悩……この解決の糸口も見えてくる筈さ。現代人だって、アンドロイドの苦悩は他人事ではない」

さあ、お客様、次は何を、お召し上がりになりますか？ ごゆっくり、お楽しみくださいませ……

池田大作氏 来訪

今、俺の店、電腦バー「まとりくつす」にいます。いつものように、狭い店内の壁という壁には液晶大画面のネット対応型デジタルテレビが隙間なくはめ込まれています。無数の液晶大画面では、今、全ての画面で、一青窈さんが「ハナミズキ」を歌う映像と音声が続り返し流れています。

「いい歌ね……。泣きそうになる」

と、三十歳当時のオードリー・ヘップバーンを再現したアンドロイドが、ポツリと呟く。二十代後半の小雪のアンドロイドも二十歳当時の藤原紀香のアンドロイドも、カウンターの中で、「ハナミズキ」に聴き入っております。今日は三人に、バニーガールの衣装を着せてみました。男でなくても、ゾクツとくる華やかさでしょう？

俺はいつものように振り向いて、一青窈さんの映像に見入る。この液晶大画面の向こうには、全国・百万人の自分のブログの愛読者がおります。いつもありがとうございます……。さあ、「まとりくつす」に、おこしく下さいな。長いカウンターの真ん中にお座りくださいな。さあ、どうぞ、くつろいで……。そちらから見て右端の力ウンターでは、いつものようにタイムスリップで連れてきた30歳当時の俺が飲んだくれる他には、お客様はいません。まあ、ゆつくりと、お話いたしましょう。お飲み物は？ ……かしこまりました。

わア！ 誰？ カウンターの中の液晶大画面の一つから、真っ青なスーツを着た老人が転げ落ちてきた。

「おいおい、痛いじゃないか。俺を何歳だと思ってるんだい？ もっと工夫しなよ、まっちゃん……」

……ぶつぶつと呟きながら、お隣に座ったチビでデブでハゲの眼鏡をかけたオッサン……チビ・デブ・ハゲなのに、タイプ的には一部上場企業の創業者のような貫禄がある、お隣のこの老人、誰か分かりますか？

「池田大作さんじゃないですか？ ついに、来てしまったんですね」と、俺が驚いて老人に話しかけると、

「まっちゃん、化け物じゃあるまいし、そんな言い方すんなよ。ああ、腰が痛い！」

と答えて、池田大作さんは、烏龍茶を小雪に注文した。

「池田さん、あなたとは何時か膝を交えてじっくり話し合いたかった……。あなたほどの権力者は既に日本にいないし、あなた程、敵の多い人物も日本にはいないですね」

「まっちゃん、そうズケズケと本当のこと言わないでくれよ。俺も年だ。傷つくよ」

「相変わらずの東京弁ですね。小気味いいです。あなたの本質は、単なる東京の下町のオッサンだ」

「まっちゃん、あたりめえだろうが。俺は生涯、下町の手苔屋のコレガレさア」

「池田さん、実は、あなたや、創価学会のことは、相当に調査させていただきました。日本で経営コンサルタントとかシンクタンク研究員を名乗る人間の中で、自分ほど、あなた達を客観的・学術的に調査した人間はいないと思いますよ」

「そうかいそうかい、創価学会！ と、きたもんだア！ まっちゃん、こないだは、管直人が来ていたし、前は小松左京……。アンドロイドの方々のバーニャール姿に釣られていたら、俺まで、転げ落ちてきちまったい……」

ふいに、カウンターのスミで飲んでいた三十歳当時の俺が立ち上がり、池田大作さんの横顔に強烈なパンチを入れた。池田大作さんが、フロアーに転落して、のた打ち回っている……。

「こら、マツオ、うちの店では暴力は禁止だぞ！」

と俺がマツオを叱りつけると、

「池田大作……俺はこいつが大嫌いなんだよ！」

……と、マツオは転げ回る池田大作氏に唾を吐いて、自分の席に戻った。

池田大作さんはようやく、立ち上がり、青あざを見せながら、席につく。

「池田さん、失礼いたしました。最近、歯の治療を終えたばかりなのに、歯は大丈夫ですか」

「まっちゃん、ひでえヤツだなア、あいつ！ 俺に何の恨みがある

ってんだ。……にしても、俺が歯医者に通っていたことまで知っていると！ さすがに俺のケツの穴の毛の数までは知らねえだろう？」

「当たり前じゃないですか、池田さん……。あなた程、誤解を受けている人物も日本では数少ない……。ネットで検索すると、あなたは既に死亡した事になっているし、あなたの御両親が朝鮮半島の方だということになっている。しかし、別の、あなたを攻撃するサイトでは、池田さん、あなたの戦前からの先祖代々の墓まで掲載されて、池田大作朝鮮説は完全に自爆しているし、あなたは、これまでに複数回、暗殺されそうになった。最後の暗殺未遂が、創価大学構内でのオーム真理教信者による、サリン砲攻撃だった。よくまあ、生きていると驚きます」

「おっと、まっちゃん、本当に詳しいね。どうしてそんなに、俺達に興味あるわけ？ まっちゃんも、俺のことなんて書いたら、朝鮮民族で部落出身のホモでアイヌということにされちまうぜ」

「興味の理由ですか？ 一つには、池田さん、あなた達が戦後の日本では、ずば抜けてマネジメントとマーケティングに成功した団体だからですよ。松下幸之助さんは、ご自分の方から、あなたに対談を申し込んでいる事実がある。あの対談集も読ませていただきましたよ」

「ああ、『人生問答』ね。松下さんか、懐かしいねえ……」

「池田さん、人生問答の中では、最初、松下幸之助さんの興味は、創価学会のマネジメントとマーケティングにあった。それが、あなたと対話していくうちに、社会万般・人生の諸問題について、松下幸之助さんが、あなたに質問して、あなたが回答していく流れにな

っている。松下幸之助さんが、あなたのことをどれだけ尊敬していたか、彼の著書にも出てきていましたよ。あなたは国民から非常に誤解を受けている」

「まっちゃん、松下さんとの対談までよんだの？ 誤解を受けようが、神様あつかいする勘違いした創価学会員がいようが、俺は俺。海苔屋の息子のチビ・デブ・ハゲさア」

「池田さん、俺は昔、創価学会の会員から、ヒドい強引な勧誘を受けた回数は無限……。だから若いころは、あなた達のことを憎んでいた。どうやって潰してやろうか、と何年間も真剣に考えていた」

「そういう人、まっちゃんだけじゃないよ。俺は、強引な勧誘を指導した覚えは無いし、神棚や仏壇を焼くようなバカ真似は禁止していたんだぜ。なにせ、昔は貧乏人と病人の集まりと言われた創価学会でね。民度が低かったことは認めるよ。すまんことしたな」

「日蓮正宗から破門されてからは、あなた達も、かなりリベラルになったし、今の創価学会員は、二代目三代目が多く、民度は上がってますよ。確かに昔は、恐ろしく民度の低い団体でしたね」

「まっちゃん、貧乏人と病人を助けるのが、宗教だろうに？ 違うかい？」

「池田さん、その貧乏人と病人達からヒドい目にあつた人々の認知や、その噂が今の創価学会のイメージになっている。今はネットの時代だ。創価学会には、小説家の宮本輝さんを筆頭に、文芸部隊系が数万人いることも調査済みです。芥川賞作家も複数いる。なぜ文芸部隊にネットで戦わせないので？ 本気になれば、ネットで勝つだけの機動力あることは調べついているんだ」

「うーん。その辺は今後の検討課題だ。ネットに関しては次の世代に任せる」

「池田さん、世間では、あなたが世襲を行っんじゃないかと、見ていますよ。あなた御自身も、創価学会本部も世襲を全否定しているのに。御長男を副会長になんてしてしまうから、誤解受けるんです」

「まっちゃん、創価学会に副会長、何百人いると思ってるんだい？ 息子を副会長にしたのは、息子が海外に出た時のパーティー用の単なる戦略さ。創価学会では、創設者の牧口常三郎以来、世襲の伝統は無い！」

「池田さん、ところで、みんな知りたいことの一つに、やっぱり、創価学会のマネジメントとマーケティングの秘密があると思うのですが、商売繁盛の秘訣を教えてください」

「簡単なことだよ、まっちゃん。今、テレビで『ハナミズキ』歌っている歌手……ええと？」

「……一青窈」

「この一青窈さんのハナミズキ、歌い方に魂が入っているだろ？ 商売にしても何にしても魂を入れること」

「池田さん、確かに、あなたの師匠の戸田さんが作った創価学会のマネジメントとマーケティングは、善悪は別にして、優れており、他の無数の団体が真似をしてきた事実がある。しかし、創価学会のように成功しないで自爆したパターンがほとんどだ」

「まっちゃん、よく調べているなア！ 確かに、俺の師匠の戸田の造ったシステムの通りに、……99%、戸田城聖の指令通りに動いてきたのが俺の本質でね。俺だって最初、創価学会の軍隊型のマスゲーム組織、大嫌いだっただのは調べついてるな？ 文学青年だったからよ」

「勿論……。戸田さんは、マネジメントと宗教の天才だった。あなたは戸田さんの操り人形に過ぎない。そこに本質がある。もっと本当のことを、暴露いたしましょうか。例えば日蓮正宗はなぜ、創価学会を破門したか？ 到底、世間知らずの坊さん出来る芸等では無い。元弁護士の上崎さんが、攪乱したからという点で、あなた達の見解は一致しているが、あんな上崎さん程度の小物に出来る分断工作ではなかった。上崎さん等の背後に旧・陸軍中野兵学校の関係者……本物の右翼連中がいて上崎さんを操っていたのが本質だ。あなた達は、坊主ぐるみで、右翼にはめられたんだ」

「まった。まっちゃん、それ以上、言うな。それは、創価学会の大幹部でも知らない極秘事項だよ。それ以上、詳細を話すと、まっちゃんも狙われるぞ」

「まあ、池田さん、そんなじゃあ、これからの日本をどうされるおつもりですか？ 今や、海外の元首級の方々と、対等に渡りあえるのは、池田さんくらいだ。アフリカのマンデラさんも、あなたとの別れをどんなに惜しんだか、知っていますよ。ゴルバチョフさんに至っては『池田大作を正當に評価せよ』と日本政府に抗議文を叩きつけている事実もある」

「まっちゃんは、どうして欲しいのさ？」

「池田さん、これから、日本は貧困の時代を迎えると思う。あなた

達は、貧困の時にキチガイじみたマーケティングが出来る方々だ。あなたがフリーメーソンの大幹部とも上手に交渉して、権謀術数の戦闘をしていることも調査済みだ」

「まった……まっちゃん、それ以上いうな。ヤバいぜ。まっちゃんのブログのアクセスふえてるからよ」

「言わせていただきますよ。あなた達がこれから、やるべきことは日蓮宗身延山との対決です。50年前に小樽で日蓮宗と大講堂で議論というか喧嘩して、あなた達は日蓮宗をボロボロにした。日蓮宗の面目丸つぶれ。今、日蓮宗の方から過去の遺恨で法論を挑んで来ているのに、なぜ、拒否するのですか？ 日蓮宗にも、日蓮本仏論はある。あなた達にとつては、身延山くらい攻略することは軽いでしょう？ 日蓮宗を攻略したら、あなた達を破門した日蓮正宗なんか、昔から日蓮宗の手下的側面が強いから、身延山と公明党を使って日蓮正宗に揺さぶりをかけて……あの、日蓮正宗にある日蓮の板曼陀羅を身延山に戻せばいいだけじゃないですか。そうすれば日蓮系の、あらゆる団体の統一が可能だ。日蓮の板曼陀羅……真言宗でいえば、高野山の奥の院に安置されていると噂されている空海の即身仏のミイラ以上に日蓮系の方々に崇拜されている、あの日蓮の十方界曼陀羅ですよ」

「まっちゃん、日蓮宗を攻略かい？ まあ、本気になれば、軽いかなア！ 確かに絵としては可能だが、時間はかかるね」

「池田さん、身延山を攻略して日蓮系の団体を統一したら、もの凄い勢力になりますよ。あなたが生きているうちに設計図を作るんですよ。世間からは攻撃を受けるでしょうが、万が一、日蓮の教えを国教化しても、あなた達が宗教弾圧しないことまで、調べはついていますよ」

「そりゃあそうだよ、まっちゃん。宗教なんてものは個人の心の問題で、無理強いしたら逆効果だよ。あくまでも、基本は、話し合いで納得させてきたから、創価学会は伸びたのさ。馬鹿野郎の会員の存在は認めるが」

あらら、もう、文字制限です。お代わりはいかが？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6556q/>

札幌市 経営コンサルタント 松尾大生にもてなされる店 ススキノ 電腦ハ

2011年2月8日00時52分発行